

# VG 槻輪だより

会報 第218号

発行日 令和4年11月1日

発行・編集 VG 槻輪

代表者 大岡成一

<http://web1.ibj.co.jp/~kirin>

## わがまち紹介 活動報告

### 富田のまちかど 遺産めぐり

10月13日は、快晴の秋晴れで、最高のウォーキング日和でした。

定刻前に、全員「小寺池図書館」前に集合しました。参加者に「富田の「高槻まちかど遺産」をたどって「富田」を知ろう!!」ガイドブックと「散策マップ」を配布し、散策の概要の説明をしました。

富田のまちの歴史を、これらの史跡をたどり、変わりゆく富田を散策しながら理解して欲しいです。富田の先輩達は、「一口で富田は語れない」とよく言われます。

富田は、様々な特徴を持った集落が集まって構成されているのです。

郷土史家(天坊幸彦氏)は、富田史談の中で、西富田地区は富田村の根本中心であると書き残されています。



図書館前でガイドブック等配布し出発準備

初めて富田を訪問し、「高槻まちかど遺産」の標識を読んでも、理解できる方は少ないと思います。「高槻まちかど遺産」は、高槻市全域で現在二ヶ所に説

明板を設置しています。特に富田の狭い範囲に、現在21ヶ所設置されています。

しかも「高槻まちかど遺産」の説明板は小さい中に非常に濃縮して記載されていて、味わい深い説明板です。

富田のまちの歴史を、これらの史跡をたどり、変わりゆく富田を散策しながら理解して欲しいです。富田の先輩達は、「一口で富田は語れない」とよく言われます。

富田は、様々な特徴を持った集落が集まって構成されているのです。

郷土史家(天坊幸彦氏)は、富田史談の中で、西富田地区は富田村の根本中心であると書き残されています。

縄文時代、弥生時代も一般的に集落は、台地上に立地しているといわれています。それより相当以前に富田台地の粘土の中

から、ナイフやヤリ先の石の道具が出ています。

富田が文字として現れるのは、「日本書記」の6世紀中頃にできた「竹村・たかふ」として登場します。「竹村」は丘陵台地の富田台地であるようです。「竹村」は、太田・宮田・高田などを含む広い範囲で富田はその中心的役割を果たしていました。後に皇室御領の「屯倉(みやけ)」から屯田、富んだ田から「富田」と呼ばれたと思われる。

富田の「まち」

現在、富田はJR摂津富田や阪急富田の駅周辺を核として発展をつづけています。かつての富田の町並みは、駅の南方にある筒井池を中心を広がっていました。

しかし、その大半は埋め立てられてしまいました。もとは、本照寺のすぐそばまで池が広がっており、昭和40年代までは、池に映る美しい寺の姿を見ることができました。



本照寺境内展示の写真

江戸時代の絵図には、南西部に大きく筒井池が描かれ、北東には紅屋、南側に教行寺、西側には普門寺、本照寺といった寺院が建ち並んでいる様子が描かれています。

今もその多くが当時の姿をとどめており、富田の歴史的景観をかたちづくっています。

富田の「地形」

富田地区は、高槻市内唯一の台地であり、伏流水があり酒造りに使われています。富田は、高槻城(平城)よりもむしろ要塞の地であったことや、富田が川筋

富田の「酒」

から離れた台地の為に水害や地震に、高槻城付近よりも地盤が強い等の理由により古い街並みが残ったのではないかと考えられます。富田を散策していると、敷地にゆとりがあり、手入れが行き届いた豊かな植栽・板塀のある家屋等が数多く見られます。



富田のまち並み

このような事から、富田の「まち」の楽しい散策ルートが幾通りもあります。

摂津の国、富田郷。富田は、優良米の産地で育成された良質の酒米と、石灰層を通って湧き出る阿武山々系の清水で醸し出されたのが富田のお酒です。

### 2022年11月 わがまち紹介

#### 吹田吉志部文人墨客迎賓館 旧中西家住宅の訪問・見学

月 日：2022年11月17日(木)  
集合場所：JR岸辺駅改札出口  
訪問先：岸部のまち並み・旧中西家住宅  
その他：詳細は別途配布資料を参照下さい。

### 2022年12月 わがまち紹介

#### 平安宮があった京都の中心地：京都市上京区 西陣織会館・京都市考古資料館の訪問・見学

月 日：2022年12月8日(木)  
集合場所：京都地下鉄烏丸線今出川駅 南改札出口  
訪問先：西陣織会館・京都市考古資料館  
その他：詳細は別途配布資料を参照下さい。